

**EU・NATO vs ロシアのはざままで
引き裂かれるウクライナ
—境界線でせめぎ合う大国—**

<国際法の遵守、平和・安定・繁栄が基本>

◎羽場 久美子 INAF副理事長

引用の場合は羽場の名前を明記してください。

世界国際関係学会 (ISA) アジア太平洋会長

グローバル国際関係研究所 所長

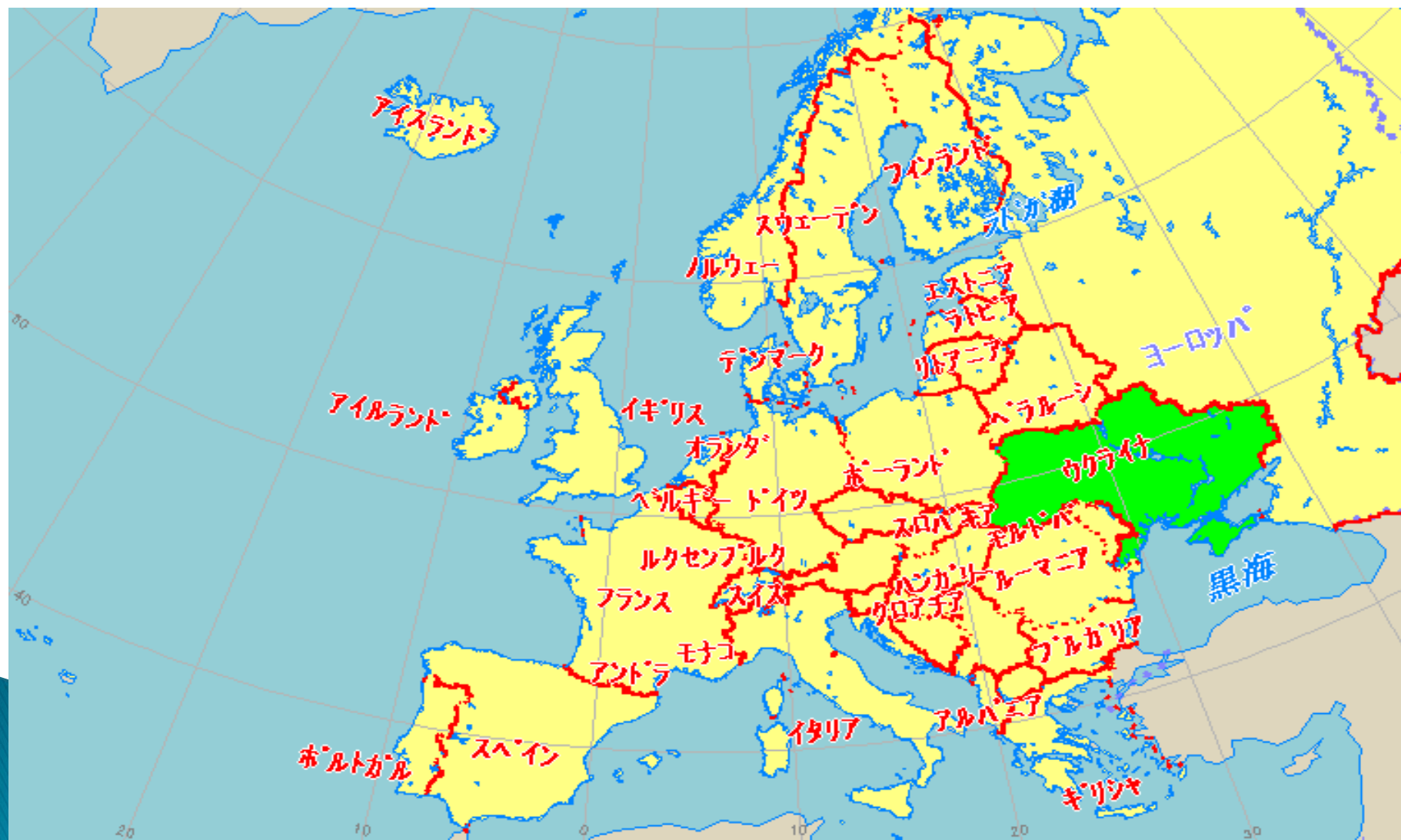
神奈川大学教授・青山学院大学名誉教授

東アジア共同体評議会副議長

1. EU・アメリカとロシアのはざまで揺れる ウクライナ紛争—何が問題だったのか？

- ▶ 「大国」の視座—EU・米vsロシアがウクライナを巡って対立
- ▶ ★EU,アメリカは何を考えているか。
- ▶ 1. <EU>ヨーロッパ的価値の拡大。—経済的利益と安定。
- ▶ 2. <米・NATO>米は何を望むか？ NATOの拡大
 - ▶ —ウクライナを使ってロシアにとどめを刺す？
- ▶ 1991. ウクライナなどの独立により、ソ連邦解体
- ▶ 3. <ロシア>クリミア死守、ウクライナ死守—地政学的要所。
- ▶ ロシアにとって安全保障上、死守すべき地域。
- ▶ ウクライナ—「ロシアの柔らかい下腹」
- ▶ ★重要 <しかしすでに主権と領土保全権を持つ他国>
- ▶ 4. <ウクライナ>市民の声が、西と東に分断（西、東、中部クリミア）—<多様なウクライナの背景を認識する必要>
- ▶ ★重要<しかしロシアの軍事侵入、首都の制圧により
親ロシアのウクライナ国民も、今や反ロシアへ>

2. ヨーロッパの中のウクライナ(領土大国) ＜EUとロシアの境界線、ドイツの2倍領土＞



3. EUとロシアの「はざま」: 西はEU東はロシア 「ヨーロッパのパンかご」豊かな穀倉庫



4. ウクライナ: 西部/東部/南部に分断—求心力弱い

西部: ヨーロッパ意識大、東部: 新ロシア意識強かった

中部: 多民族海運商業地帯(黒海での商業で活躍)



5. ウクライナとは？—東・西分断国家

面積 60万km²(ドイツ、ポーランドの約2倍) 巨大な小国？

宗教 東 ウクライナ正教会(76%)

▶ 西 東方典礼カトリックなど(16%)

歴史 東部: 1919年ソ連邦に編入、ナチスドイツの侵入、1991
までソ連邦、ウクライナ独立・ソ連邦解体

西部: WWIIまでポーランド、チェコ、ハンガリー(カトリック)

民族 東 ウクライナ人78%、ロシア人17%、

西 ウクライナ人+旧EU諸民族: ポ、チェコ、ハンガリー

言語 ウクライナ語67%、ロシア語30% (家庭語40%)

★重要なのは、東部(ロシア側)が、人口も多く農業・工業も盛ん

★西部(欧州側)は、山がちで資源も少なく投資にも不向き

西 2004 オレンジ革命、2014. マイダン革命、

東はロシアの影響<東西異なる文化・歴史の併存

★分離・独立して地政学的に不利なのは西！

6. 南部、クリミア半島の役割も重要

- ▶ 1. 地政学的、軍事的重要性！
- ▶ ロシアにとって最大の不凍港 3か所：
▶ <ウラジオストク、カリーニングラード、クリミア>
- ▶ クリミア半島：ヨーロッパ・アジア・アフリカの3つの大陸を結ぶ、ボスポラス海峡への出口)
- ▶ 不凍港とウクライナを失えば、軍事的要所を抑えられる
- ▶ ロシアにとって、「やわらかい下腹」。死守すべき要所。
- ▶ 2. <多民族、多宗教、地域主義の伝統>
- ▶ クリミア・タタール、クリミア・ユダヤ人、ウクライナ人、ロシア人。(イスラム、ユダヤ、正教会の混合地域)
- ▶ 3. ★ 問題点：クリミアをロシアが軍事的に抑えてから、
▶ ウクライナの反ロシア意識、逆に強まる。
▶ 今回の、ロシア軍のウクライナ侵攻によって、
▶ 南部・東部でも、ロシアに対する恐怖が高まっているのは事実。

ロシアの不凍港3か所(北:カリーニングラード 南:クリミア、東:ウラジオストク・北方領土)



7. ウクライナとヨーロッパ・ロシアの 歴史的ジグザグ(1)13cからソ連崩壊まで。

- ▶ **13世紀 キエフ公国(ヨーロッパの強国)滅亡**
- ▶ **★西*ポーランド王国、ハプスブルク帝国-カトリック受容**
- ▶ **東 ロシア帝国編入 ↑西(東方典礼カトリック)**
- ▶ 1917-8. 第1次世界大戦期、ウクライナ・ソヴィエト
- ▶ **東 ソ連邦編入、戦間期大飢饉(スターリンの政策)**
- ▶ 1945. 2. 第2次世界大戦、**クリミア=ヤルタ**での戦後処理
ヤルタ会談、「ヤルタ体制」—**欧州の東西分断**
- ▶ 1986. 4. ペレストロイカ期に、チェルノブイリ原発事故
- ▶ 1991年12月「ベロヴェーシの密約」
- ▶ **ロシア、ウクライナ、ベラルーシの独立、ソ連邦解体**
- ▶ 1991 独立国家共同体(CIS)*ウク「**ヨーロッパ回帰**」主張
- ▶ **ウクライナがEU/NATOに入ればロシア事実上解体(張り子のトラ)**

8. ウクライナとヨーロッパ・ロシアの21世紀のジグザグ(2) — 欧米とロシアの綱引き

- ▶ 1. **2004 *オレンジ革命 (西ウクライナ+キエフ)**
 - ▶ ユーシチェンコ「われらのウクライナ」
 - ▶ のち、ティモシエンコ「ティモシエンコ連合」
- ▶ 2009. EU—ウクライナ他 「東方パートナーシップ」EU支援部分的
- ▶ 2. **2010 親ロシア派ヤヌーコヴィッチ大統領、選挙で勝利、**
 - ▶ 2011. ウクライナ、「ヨーロッパエネルギー共同体」加盟
 - ▶ 2013. 11. ヤヌーコヴィッチ、EUの連合協定拒否
 - ▶ ロシア、150億ドル支援
- ▶ 3. **2014, 3 マイダン革命 (キエフ)**
 - ▶ 対抗—EU、110億ユーロ支援、現実にはIMF
 - ▶ 日本15億ドル支援
 - ▶ →ウクライナの「欧州回帰」鮮明

9. 親ロシア派ヤヌーコヴィッチと、 西欧派オレンジ革命の指導者

親ロシア派 ヤヌーコヴィッチ(2010)

▶ 西欧派 ユーシチェンコ(2004)、ティモシェンコ、ポロシェンコ(2014)

レンスキー(2019)



- ▶ ★ゼレンスキー:お笑いタレント:市民派「国民のしもべ」→
- ▶ アメリカが積極的・政治的・軍事的支援;
- ▶ ゼ、EU/NATO加盟を憲法に記入。ロシア派のオリガルヒを弾圧。

- ▶ 東はたびたび連邦化、その後独立を主張。ロシアが後押し
- ▶ 西は反対。WHY? 西側の方が、資源がなく基盤が弱いところが問題
- ▶ 分裂・独立して地政学的に不利なのは、西
- ▶ 経済的独立を保つことが難しい。(東の分離独立に警戒)

力関係：西欧派青、ロシア派赤

(濃い方がより強い) **引き裂かれた国家**

← 西欧派

ロシア派 →



10. 2014年 マイダン革命

1) 仕掛けたのは西ウクライナ

2) BUTロシア軍、クリミア占拠、東の軍事化

▶ 軍事侵入すると国際的孤立を招く。

1) 2014年3月「マイダン革命」—「我々はヨーロッパ」

2) 2014. 3月<ロシア軍、クリミア半島占拠>

クリミア共和国宣言(正式な手続きへず違法とも)

ロシアへの編入

3) 2014. 3月<東ウクライナの軍事化>

ードネツク、ハルキウ、オデッサなどで、親ロシア派と西欧派の衝突 (アメリカ、ロシア双方の介入か)

NATO, EU加盟が議論される(憲法記入)

西欧は模様眺め。(加盟を約束していなかった)

バイデン政権は、積極的NATO加盟をアメリカが要請。

11. 2014. 5.

ポロシェンコ大統領就任と、軍事化、 東ウクライナへの空爆開始(内戦開始)



ポロシェンコ大統領選挙勝利

ポロシェンコ、ウクライナ軍と

ロシア製地对空ミサイルBuk

東部では、1万3千人の若者が内戦で死ぬ(2014)

2022年までにはさらに増加(内戦が8年間継続)



12. マレーシア航空機撃墜事件2014.7. (Buk地对空ミサイルによる撃墜)

- ▶ 1. 東西どちらが「誤射」したのか？
- ▶ 2. なぜ「マレーシア機」(アジア機)は撃墜されたのか？ 高度を落とし、東ウクライナの上空を飛行
- ▶ 3. 使われたのはBuk(ロシア製地对空ミサイル)
▶ 一西ウクライナ、東ウクライナ、どちらのBuk?
- ▶ 4. 不可解な情報(たがいに、相手国主張)
▶ **誰にとって有利なのか？**
- ▶ 5. その後の展開—うやむや：
▶ (その後騒がれないことからすると、
▶ おそらくウクライナ側の誤爆か？)

13. 西欧(EU)の仲介

▶ ウクライナの革命、2度起こる。

1. 2004「オレンジ革命」—「ウクライナはヨーロッパ」

▶ **★EU、必ずしも積極的に支持してこなかった。**

▶ 2004年、丁度EUに中東欧10か国が加盟。15カ国から、
◦ 25カ国になった年。

▶ EU、中・東欧、ルーマニア、ブルガリア、旧ユーゴスラビア
◦ の国々を迎え入れる準備。

▶ **ウクライナを入れるには、準備が整わない。**

▶ **ウクライナのオレンジ革命、放っておかれる**

2010年、結果ロシア派が政権復帰。

ヤヌコヴィッチ、EU連合協定拒否

2014年→EUかつての反省、「マイダン革命」を支持。

当初、西部勢力の優位vsロシア軍クリミア介入！

8月末以降は、東部優位、西部敗退

14. ドイツ・メルケルの仲介：ウクライナ・ポロシェンコ、ロシア・プーチンの対話



15.ウクライナ問題に関する、プーチンvs オバマ(仏、オランダの仲介)2014.7



ミンスク合意 2015.2.11.

ベラルーシ・ロシア、ドイツ・フランス・ウクライナ



16. ミンスク合意(OSCE監督)2015. 2.11. ドイツ、フランス仲介:東部ウクライナ停戦

ミンスク合意の主な内容

- 戦闘の停止(停戦)
- 前線からの重火器の撤去
- ウクライナの法律に基づいた地方選挙の実施
- 恩赦と捕虜の釈放
- 人道援助と社会保障
- 外国軍とよう兵の撤退、非合法集団の武装解除
- 非集権化を骨子とする憲法の改正

17. 停戦ラインと緩衝地帯2015.2. (ルガンスク、ドネツク2州のさらに東に停戦ライン)

停戦ラインと緩衝地帯



18. 2019.6. 21. 西と東の膠着状態の中、東の一部住民(12%)
が参加できない大統領選挙で、ゼレンスキー勝利。欧米接近
EU/NATO加盟を憲法に。」親ロシア派オリガルヒ(財閥)を国家反逆
罪で逮捕。 2021.9. バイデン、ゼレンスキーに、6000万ドル
(66億円)で対戦車ミサイル支援 (ホワイトハウス)12月より武器援
助。 アメリカのウクライナ軍事援助25億ドル相当(3000億円)



19. 2022.2. 突然アメリカからの

ロシア侵攻報道（インテリジェンス情報）

▶ 1. アメリカ・インテリジェンス、バイデンからのロシア軍侵攻報道
通常、アメリカはIntelligence からの情報を公開しない
アメリカの報道の仕方が、変更。

2月16日、北京オリンピック最中のウクライナ攻撃予告（バイデン）
実際には、16日には何も起こらない。

2. ロシアの攻撃開始 2022. 2.24.

ルガンスク、ドネツク人民共和国の独立を承認★
東部に侵攻 ミンスク合意破棄

→ その後各方面から、首都キエフ（中部、西部ウクライナ）にも進撃
世界が震撼！ 2022.2. 27 キエフを陥落目的か？

アメリカ、さらなる武器供与開始。

ドイツ、ウクライナに地对空ミサイル提供

（アメリカ、自らは手を汚さない。代理戦争開始）

犠牲はウクライナ市民に。

ロシア、西が手出しをすれば、「核兵器使用」も示唆。言語道断

20. どうする？ウクライナ問題の解決方向

(1) 安全保障 NATOの変容と復興

何よりも＜停戦交渉と、NATO拡大停止＞

ただしロシアがウクライナ進撃をやめなければ実効性なし

★＜NATO拡大の停止(ウクライナの中立化)を条件に戦争終結＞

★しかしこの段階では、ウクライナは、中立条件をのまないだろう。

- ▶ 1990. ブッシュ、NATOの不拡大を約束★ 16カ国
- ▶ 1991. ソ連邦崩壊、★ NATO ,ローマ条約で「危機管理の同盟」へ
- ▶ 1999. ポーランド、ハンガリー、チェコ、3カ国NATO加盟 19カ国
- ▶ 2002.5. NATOロシア理事会設立 19+1
- ▶ 2004. ルーマニア、ブルガリア、7カ国加盟 26カ国
- ▶ 2009. アルバニア、クロアチア 28カ国
- ▶ 2017. モンテネグロ 29カ国
- ▶ 2020. 北マケドニア 30カ国
- ▶ 旧ソ連各国(ロシア、ベラルーシ、ウクライナ、モルドバ)以外
のほとんどが参加 今回ウクライナへ拡大
- ▶ ★1991のように、ロシア、解体の危機を感じたか？

＜ロシアがウクライナに軍事侵入する前に、NATO不拡大を言うべきだった。＞

ウクライナが、ロシア軍によって解体させられたら、逆にロシアは国際法的に終わり

→ **ロシアの解体、安全保障理事会から外されるなどの制裁？**

21. NATOの急速な拡大へのロシアの脅威 アメリカ、アフガニスタンから軍を撤兵。 ウクライナと東アジアへ移動。

ウクライナ問題とNATOの東方拡大

NATO

「北大西洋条約機構」
米国や西欧諸国を中心とした軍事同盟
冷戦後は旧ソ連含む東欧諸国も次々加盟

ソ連崩壊前の加盟国



1999年以降の加盟国



ウクライナ
NATOへの加盟を希望



アメリカ
ウクライナの主権を尊重



ロシア
NATO「不拡大」の
権限を要求

時事通信の記事を基にYahoo!ニュース制作
写真:ロイター/アフロ, Ukrainian Presidential Press Service/ロイター/アフロ, 時事通信/ロイター/アフロ

22. どうなる？

ウクライナ問題の解決方向 (2)経済

既に開始？ 国際経済からの締め出し

- ▶ ①ロシアの石油、天然ガスのパイプライン拒否。
- ▶ ②国際金融決済SWIFTからの締め出し
- ▶ ③プーチン、ラブロフの個人資産凍結
- ▶ これだけでは、ロシアの軍事侵攻を止めることはできない。
- ▶ ★ロシア、既に2021年7月、「国民福祉基金」の米ドル資産（4割近く）を一挙にゼロに。人民元とゴールド、ルーブルに換金。（5年は持つ？と言われる）。既に8カ月前に準備していた。
- ▶ ウクライナ国民に、これ以上の戦争被害を出すことを止めることが急務。 <停戦交渉を。制裁は限界>
- ▶ 国際社会が懸念する中、米、ドイツ、軍事支援を本格化

23. 結論と展望—国際社会の役割

1. ウクライナ問題とは何か？—〈東西の綱引き。米口のはざま。〉

▶ しかし、★ロシア軍の「平時での」他国侵入:主権と領土の侵害、
▶ 国際法の蹂躪。これを国際社会としては許すことはできない。

▶ ロシアは、わたってはならない橋を渡ってしまった。

軍事力ではなく、あくまで外交交渉によって問題を解決すべきだった。

→→ 可能な限り早期の停戦合意を！

ウクライナ政権が陥落する前に、停戦合意を。ロシアは武力攻撃を停止すべき。

2. ★アメリカも、ウクライナへの武器供与とNATO拡大を止める必要あり。

▶ なぜロシア軍はキエフ、さらに西へ南へと侵攻したのか？

▶ 政権転覆画策、原子力発電所、情報網の切断は、国際法を蹂躪している。

▶ 何がロシアを、ウクライナ諸都市陥落までの侵攻、政府転覆まで試みさせたのか？

3. 日本、中国、インド—「非同盟」の隣国として、東アジア日中韓と結び、平和と安定、
主権尊重、即時停戦の声明、仲介に動くべき。〈平和の仲介を、アジアから！〉

4. ★国連決議80カ国のウクライナ侵入反対決議重要。

▶ ロシアが、国際法規を守れず、他国侵攻を続けるなら、安保理常任理事国資格はく奪も検討

5. ウクライナ市民、ロシア市民の戦争停止要請 国際市民からの、軍事力行使と他国侵攻への反対声明が、国際市民社会としては重要。

〈境界線上でのパワーの衝突:アメリカも含め、軍事力、武器供与でなく、
平和と安定、主権尊重と、領土保全、国際法規遵守、外交交渉による解決こそ重要！〉

★欧州、ロシア市民、ウクライナ市民の、プーチンの軍事行動への抗議を、サポートする必要。

★世界、日中韓・インドは、共同で、国連、国際社会から、軍拡、核兵器威嚇に圧力を！

ウクライナとEU、関連文献

- ▶ 黒川祐次『物語ウクライナ史』中公新書、2002.
- ▶ Kumiko Haba, “Ukraine, Divided Nation Between the EU/NATO and Russia”, *Resolving Regional Conflicts and Building Peace and Prosperity*, Ed. by Kumiko Haba, Center for International Studies, Aoyama Gakuin University, 2019. March
- ▶ Ukraine, *the EU and Russia—History, Culture and International Relations, Studies in Central and Eastern Europe Series*, ed. by Stephen Velychenko, Palgrave, Macmillan, 2007.
- ▶ 伊東孝之、「NHK視点・論点「ウクライナ停戦合意の背景と意味」」2015.3.12
- ▶ 服部倫卓『ウクライナ、ベラルーシ、モルドバ経済図説』ユーラシアブックレット2011
- ▶ 羽場久美子『ヨーロッパの分断と統合—拡大EUのナショナリズムと境界線』中央公論新社、2016. 3. (「ウクライナ、EU・NATOとロシアのはざままで分裂する国家、せめぎ合う大国」)
- ▶ 羽場久美子『拡大ヨーロッパの挑戦—グローバルパワーとしてのEU』中公新書、2014. 4. 増補版 (「NATOのコソヴォ空爆とバルカンの民族問題」)
- ▶ 羽場 久美子・溝端佐登史編『ロシアと拡大EU』ミネルヴァ書房、2011. 4.
- ▶ 藤森信吉、「ウクライナ時事評論」(IT)
- ▶ 藤森信吉「ウクライナとEU」羽場久美子編『EU(欧州連合)を知るための63章』明石書店、2013.10(2014.3刷)
- ▶ 藤森信吉「欧州拡大とウクライナ」羽場久美子ほか編『ヨーロッパの東方拡大』岩波書店、2006.
- ▶ 藤森信吉「EU・NATOとウクライナ政治」羽場久美子・溝端佐登史編『ロシア・拡大EU』ミネルヴァ書房、2012.